



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_south/855/



エリア

台南市

テーマ

歴史

建築

教育

文学

國立台灣文學館

国立台湾文学館 (旧台南州庁)

100年以上の歴史を持つ建物で 台湾文学を味わう

国立台湾文学館は、2003年10月に台湾初の国家レベルの文学博物館としてオープンしました。建物は、日本統治時代の1916年に台南州庁として建設されたもので、100年以上の歴史があります。戦後も台南市庁舎などとして使われてきましたが、庁舎移転後、修復、リノベーション(改修)を経て、文学博物館として生まれ変わりました。現在台南だけでなく、台湾全土で歴史的建造物のリノベーションがブームになっていますが、古い建物が多く残る台南の中でもその先駆け的存在でした。常設展のほか、台湾内外の作家個人や文学テーマごとの特別展が随時開催されています。また館内では、文学に関するものだけでなく、建物の歴史、構造に関する展示もされており、100年以上の歴史を持つ建物の成り立ち、秘密も知ることができます。

学びのポイント

1.

台湾文学って何?

現在の台湾では一般的に、先住民族の口承文学から、オランダ、清朝、日本の統治を経て、戦後の中華民国に至るまで、各時代に台湾に移住した人が残した文学作品を全て「台湾文学」と考えています。そのため、文学の創作も様々な言語によって行われてきました。現在台湾の公用語である「国語(中国語)」だけでなく、各先住民の言語、古典漢文、「台湾語」、客家語、日本語、さらに近年増えている東南アジア移民の各母語など、台湾文学の言語の多様性は、そのまま台湾の過去、現在におけるエスニックグループの複雑性、多元性を反映しているのです。

2.

日本語で書かれた「台湾文学」?

日本による植民地統治の約50年間、台湾では日本語が「国語」として教育され、台湾語などの土着言語の使用は制限されたため、台湾の作家、知識人は日本語で文学創作を行うことを余儀なくされました。特に1930年代以降は日本語教育で育った台湾人、台湾在住日本人による文学創作が盛んになります。現在の台湾ではいずれも「台湾文学」の範疇に含まれていますが、同じ日本語で書かれてはいても、その考え方、思想、文学創作の目的、台湾の社会に対する見方は全く異なるものになっています。台湾人が、支配者の言語「日本語」を用いて書いた文学作品は、台湾人が歩んできた苦難の歴史を読み取る作業もあります。